

2005 no.12

名鉄犬山線に 『徳重・名古屋芸大駅』が 誕生



今年(2005年)1月末、慣れ親しんだ『名鉄犬山線徳重駅』の名前が変わりました。

その駅名は『徳重・名古屋芸大駅』です。

駅名に名古屋芸大の名称が入ることは、「長年の望」でした。名芸大生には親しみやすい駅名となり、地域との交流もより深まることが期待されます。

皆さんよく目にしていた景色も、まだまだ残っています。駅を出て西春キャンパス(美術学部・デザイン学部)に向かえば、「喫茶店」、「スポーツ用品店」、「スーパーヨシズヤ」、「石材店」、「木材店」。師勝キャンパス側(音楽学部・短期大学部)に行けば、「広島焼きの店」「トントンハウス(とんかつ専門店)」があります。目新しいマンションや店舗が次々と建つ中で、昔のままの風景もまだまだ残っています。

名鉄をご利用の際には、是非路線図をご確認下さい。

また、大学見学をかねて足を運んでみてはいかがでしょうか。

写真
上 駅西側出口
下／ホーム

9月25日に閉幕した「愛・地球博」。会場内で行われたアートイベントに参加した、彫刻科を22期に卒業した鈴木琢磨さんが、イベント内容、会場の様子などレポートしてくれました。

私が、このプロジェクトにはじめて参加したのは、2003年5月のはじめでした。年に数回会う知り合いからの電話でとつぜん、愛知万博で自然体感プログラムに中部地区の作家として参加して

ほしいと頼まれ、現地視察に参加したのが始まりです。この自然体感プログラムは、森の自然学校（長久手会場）、里の自然学校（瀬戸会場）、グローイング・ビレッジ（長久手会場）そしてみなさんご存知の、サツキとメイの家と4つの特色ある自然（半分人工？）里山を体感しながら、万博のテーマである「自然の叡智」を考える機会を提供することを目的としています。

私は、この中の森の自然学校に参加しました。森の自然学校では、インタープリターと言う自然の中での遊びや散策など自然体感を通じて自然について感じるきっかけ作りをするガイドと一緒に、長久手会場にある南の森で、自然体験してもらうプログラムで、このインターパリターの代わ



りに、アート作品を通じて自然体感してもらうという関わりで作品の制作をしました。作品は、「森の音」という題名で、バリヤフリーの遊歩道から流れ落ちる雨水を、5つの陶器でできた筒の上のガラス板に落として、音を鳴らし、周りの森に目を向けるきっかけを作るものでした。

実際に制作に入るまで、大きな変更がものすごく多く、ぎりぎりまで雪の降る森の中独りで作っていて、遠くの方から聞こえる開会式のリハーサルの音が今でも思い出します。会場内を歩き疲れた時に、森の中でのんびりするのもいいものですよ。

万博終了後には、このインターパリターを育成する施設としてこのまま使われるそうです。

同窓会事務局よりお知らせ

同窓会ホームページリニューアルについて

同窓会のホームページは今までありました。しかし、あまり利用されることがなく、見てもうような記事を掲載することもできない状態でした。

来年からはもっと有効的にホームページを利用するため、皆さんから意見を募りたいと思います。こんなことを掲載したい、掲示板をもっと使いたい（写真のアップなど）、デザインをこんな風にしてほしい、などの意見を募ります。

担当者までメールにて連絡をしてください。

書式は自由です、必要事項は卒業期、氏名、連絡先（メールアドレス）です。デザインを提案してくれた方には、正式に依頼することもあります。

もちろん卒業生でデザイン関係の仕事をしている方からの提案も歓迎します。ホームページ作成を仕事にしているかたからの売り込みも受け付けます。

ホームページ担当

鎌田 桂太郎 e-Mail:katurak_buf@hotmail.com

～同窓会全国支部づくりのお知らせ～

同窓会全国支部づくりを始めました。

このごろの少子化問題や就職難などで、大学にとってはライバルとの競合が増し、全国の学生の獲得など、大学と同窓会と同窓生によるネットワークの必要性が高まっております。

支部づくりにより今までの一方通行型から循環型を図り、情報の共有、教員との相互協力をを目指します。

すでに全国各地にて候補者も現れ、関東地区からは支部規約や予算についてなどの問い合わせも出てきています。

支部づくりに参加してくださる方を全国より募っております。

皆様のご賛同、ご協力の程よろしくお願ひいたします！

お問い合わせは

下記FAXかメールにてお願いします。

FAX:0568-25-4190

e-mail:dousoukai-n@nua.ac.jp



名古屋芸大の在校生・OB どさんと30人



(第3種郵便物認印)

日展 大量 入選

『日展に大量入選』

2月に開かれた「第36回日展東海展」にて、名古屋芸術大学の同窓生及び学生計30人が入選したことが、2月15日付けの中日新聞にとりあげられました。

内、同窓生の3人は『中日賞』、『万博賞』を受賞しました。

記事では、制作に打ち込みやすい環境づくりについて取材されており、「研究室に気軽に集まることができ、教員や先輩、また学生からも、アドバイスや制作そのものの姿勢について学ぶ、多くの機会が生まれている。(要約)」とまとめられています。

右写真 1.林真[日22] / 2.山口今日子[日22] / 3.宮原剛[日25] / 4.吉田季里子[日3年初] / 5.谷川基子[日3年初] / 6.三政洋一[影院初] / 7.鈴木淳子[日22] / 8.河村佳則[彫7] / 9.吉村10.金子絵里[日30] / 11.水野寛奈[日30] / 12.川口真貴子[日23] / 13.片山宏先生 / 14.神戸峰男先生 / 15.梶川俊一郎[19] / 16.長坂伊紗[彫研 初] / 17.田中厚好[彫10]

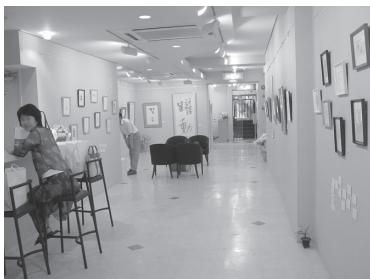
T.A.G. IZUTOにおいての作品展及びスペース利用について

過去このNUAPRESSでご紹介したスペース「T.A.G. IZUTO」の利用方法をご紹介いたします。これは同窓生の皆様にも広くご利用いただけるようご案内いたします。

一昨年、栄・錦三丁目の漬け物屋「いづ籠」さんの好意により、美術学部造形科が運営の主体となり、開廊したのが始まりのアートスペースです。

在学生（4年生以上）、卒業生の作家活動及び作品発表の奨励・支援のためのスペースとして活用できる場としての提供を目的にしています。

学部（4年生以上）・研究科内学生の自主企画展、卒業生の自主企画展、また教員の自主企画展、各科主催の企画展、教員企画の学外作家展を視野にいっています。ただし、大学の専任教員・担当教員の認印が必要です。



2週間を1単位とし（毎週水・木曜日は休廊）、使用料は 20,000円／1単位です。開場時間は12:00～19:00（搬入は原則として木曜日、搬出は水曜日）となります。作品発表の場をお探しの方は、是非ご利用下さい。

問い合わせ先

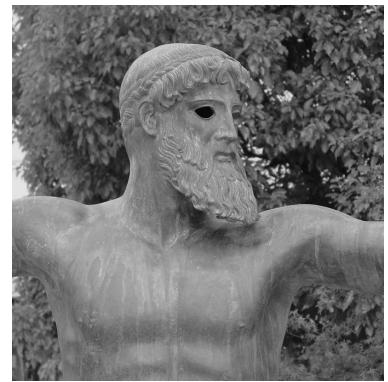
名古屋芸術大学美術学部
造形科事務局 担当 岩井まで
TEL 0568-24-0325(内線337)
0568-24-2893(ダイヤルイン)
FAX 0568-24-0326

アルテミシオンのポセイドン像 名古屋芸大に登場!



正門横に設置されたポセイドン像

昨年の12月14日、学院創立50周年の記念モニュメントとして、名古屋芸術大学美術・デザイン学部に『アルテミシオンのポセイドン像』が設置されました。これはスゴイことです! このポセイドン像は、1926年にギリシャの首都アテネの北130kmに位置するアルテミシオン岬沖の海中より発見されたブロンズ像のレプリカです。発見当初ブロンズの傷みは酷く大きな修復が必要となり、その発注先に修復会社として世界的に有名な『PETER BAGGANTI & SON 社』がギリシャ文化省より指名され作業が行われました。その際、レプリカとしてブロンズを2点コピーすることが許され、この彫像はその内の1点のことです。『PETER BAGGANTI & SON 社』より「日本の芸術大学に設置され、芸術を志す学生達に観ていただければ大変うれしい」との伝言もいただきました。作者についてはカラミス、オナタス、アゲライダスなどの名があがっていますが、いまだ決定的な決め手はないそうです。いずれにしても前世紀中ごろ、オリンピアのゼウス神殿彫刻群とパルテノン彫刻群との中間に占める雄渾な傑作であることには間違ひありません。



ブレーメン・ナゴヤアートプロジェクト2005



写真

左 会場の一つである元味噌蔵「金清」

中・右 アート&デザインセンターで行われた、展覧会と味噌蔵の紹介

ドイツ・ブレーメンの若手作家と日本・名古屋(名古屋芸術大学の在学生・同窓生)の若手作家ら計33名(ドイツ17名/日本16名)が、既存のギャラリーではなく、西春町にある築70年の「元味噌蔵 金清」を中心に、制作展示を行うアートプロジェクトが2004年から進んでいます。名古屋芸術大学と姉妹提携を結んでいるブレーメン芸術大学との共

同開催でもあり、海を越えての交流は大学間だけではなく地域にも広まっています。今後の国際交流を広げる第一歩として、期待されています。展覧会は、ブレーメンの作家の滞在・制作期間が今年9月2日から15日まで、展覧会は16日から30日まで、味噌蔵、及び西春町と名古屋市栄生の産業技術記念館、他にて行われます。(2005年8月現在)

国際交流展「site scenes」

ブレーメン芸術大学学生滞在・制作

>>2005年9月2日[金]→15日[木]

展覧会開催期間

>>2005年9月16日[金]→30日[木]

日本人参加アーティスト

荒川美由喜・石黒祥子・犬飼千絵・可知井英敬・島なぎさ・谷澤朝美・中田絵美・福岡寛之・眞坂亮平・水野早苗・村田仁・門間卓也・山田真希子・吉澤香代子・吉田亜希子 以上16名。他ドイツより17名参加。

江本 幸恵 絵画科洋画コース 31期卒

大学卒業後、大学院へ進んだ江本さんが「夢広場はるひ絵画ビエンナーレ」で優秀賞を受賞しました。来年の1月末にはるひ美術館で個展も開催されます。現在院2年生の彼女の作品づくりと院生活、今後の展望を語ってもらいました。

Q:大学卒業後、なぜ大学院に進みましたか?

ただ素朴に、自分の中で納得のいく作品を制作したいと思いました。学部の時は、広く浅く色々な事を体験しました。大学院では、それを絞り込んで深く学び、自分なりに結果を出す時期になったら良いと思っています。

Q:大学と院ではどんな違いがありましたか?

大学院では、学部の時の様に課題が与えられるわけではなく、自分で計画してカリキュラムを作成するので自分のペースで主体的に制作研究を進めることができますが、充実したものになるか、失敗してしまうか、全て自分の責任にかかってきます。また学科科目の授業においても研究発表をする講座が多く、学部の時より深く考慮することが必要となりました。そして先生方や他の院生と討論を繰り返す中で、いろいろな考え方を知ることとなり、自分なりには考える力が付いたと実感しています。

Q:今回、「夢広場はるひ絵画ビエンナーレ」で優秀賞を受賞した作品について教えて下さい。

私は洋画を専攻していますが、学部の時から日本美術に興味がありました。日本人の持



左
アトリエにて

右
作品の前で



一生描き続けていきたい。何事にも前向きでありたいと思っています。絵を描き続けながらいろんな事にチャレンジしている自分であります。

江本さんは、日本の美意識を大事にして作品づくりに生かしているが、同時に自分自身の事もよく見つめているようだ。シンプルな水をテーマにしているが、たっぷりとした水の流れを穏やかな色で表現しており、見る人に癒しを与えてくれる。

☆江本幸恵個展

2006年1月27日～2月21日 はるひ美術館(西春日井郡春日町)

畠中佳美(旧姓:赤坂)

日本画24期卒

5月なのに桜が満開!! ここ開田高原にラーメン店を開業した、畠中さんを訪ねました。国道361号線沿いを走ると手作りの大きな木の看板『らあめん べそ』がみえてきました。早速店内に入ると、だるまストーブの上には、美味しいように湯気をあげている、赤味噌(名古屋風!?)のおでんがお鍋の中でぐつぐつと煮ています。

学生時代、アルバイト先で知り合った現在のご主人の、「故郷の開田高原で店を持ちたい」という夢を実現させた畠中さん。噂で美味しいと聞いていたチャーシュー麺を食べながら、お話しを伺いました。



店舗



ご主人と一緒に

Q:『でべそ』という名前の由来は?

主人が子どもの頃、日本地図のちょうど中心にぽっこり盛り上がりしている御岳を見て、「でべそみたい!」と思ったことがきっかけだそうです。

Q:蕎麦処の土地でラーメン専門店というこどなのですが…?

この人々が好んで蕎麦屋に行き、食べるという土地柄でも無いことから、地元の人にも立ち寄ってもらえる店にしたいという意気込みもありました。

Q:『でべそ』の一番のこだわりは何ですか?

ラーメンは勿論のこと、箸立てから座布団まで、出来る限り手作りのものを提供しています。食べ終わった後まで楽しんで頂けるよう、どんぶりの模様にも凝りました。ユーモラスなナマズが泳いでいます。

Q:最後に、お子さんも生まれ、ここでの生活は4年目になるそうですが、環境はいかがですか?

田舎の生活は協力し・助け合うこと、垣根のない付き合い方など、街中に住んでいた頃には経験しなかった事が色々あり、ここの感覚に慣れる/とけ込むのはかなり大変でしたし、戸惑うこともあります。ですが、地域が子どもを育てくれるアットホームな環境に、今ではとても気に入っています。

お腹も大満足、そして素朴で温かな『らあめん べそ』。開田高原にお立ち寄りの際には、是非この雰囲気を味わいに『らあめん べそ』へ足を延ばしてみてください。

『らあめん べそ』

アクセス:名古屋方面から車で、中央自動車道中津川I.Cから国道19号線で木曽福島方面へ。木曽大橋の交差点から国道361号へ入り開田方面へ。

電車を利用する場合は、JR中央本線「木曽福島駅」下車、国道361号線を車で開田方面へ。

木村 創 デザイン科 22期



本人近影

海外の工場で、安く大量に物をつくるのが当たり前の現代社会において、一点一点の制作に気持ちを込める作家と呼ばれる人たちがいる。物づくりを愛し、「木」に魅せられた木工家、木村創氏にインタビューを試みた。

Q:現在の木工家に至る経緯をお聞かせ下さい。「物づくり」に係わりたくて、株式会社オリバーにて家具デザイナー、株式会社アルペンでゴルフ用品のデザイナーを経て今に至ります。

Q:いずれの会社もデザイナーという「物づくり」に携わる部署だと思うんですが、退社

された理由はなんだったんですか。一言でいうと自分のやりたい「物づくり」が出来なかつたからです。

Q:それは具体的にどういうことですか?

大手企業であれば仕方のないことなんですが、「メーカー」「販売店」「ユーザー」の三者間での情報の流れが、効率を優先するがために、正確さを欠いたりすること。もうひとつは、数字=結果という考え方。もちろん経済社会においては当たり前のことなんですが。自分は、ユーザーとマンツーマンに近い関係で、制作過程すべてに目が行き届くようなスタイルを望むようになりました。たいへんなのは重々承知しています。

Q:「物づくり」を追求するにあたり、なぜ木工だったんですか?

サラリーマン時代の木工職人ととの出会いがひとつきっかけになっています。彼らに触発されて、「木」と触れ合うようになりました。本当は「物づくり」が出来ればよくって、「木」でなくてもよかったんです。しかし、いつの間にか、「木」の特性なんですが、加工しやすいけど、湾曲したりという歯がゆさのような

ものを楽しんでいたら、木工家になっていました。

Q:運命の人(木)と出会ったようなものなんですね。木村創さんのお名前も木工家になるべくして付けられたかのような運命的なものを感じます。

よく言われます。(笑)

Q:最後に、木工家としてはどんなポリシーをお持ちなんですか?

木でもプラスチックでも、形あるもののものは、劣化し、ゴミになります。極端ですが、物を「物づくり」は「将来のゴミづくり」という意識なんです。どうせ産み出されなければ、未永く愛され続けるような「物づくり」を、…永遠のテーマというやつでしょうね。

物はあふれかえり、使い捨てが当たり前の世の中だけに、木村氏との対話はどこか新鮮な感じがした。

彼の「物づくり」の精神から新たに産み出される「モノ」に期待したい。

田中 宏典 彫刻科 13期卒



教室での様子



Q:卒業後の事を聞かせて下さい。

名芸大を卒業してはや20年が経とうとしています。在籍していた頃の大学と現在の大学とでは外見や雰囲気がかなり変わりましたね。同じ様に私も色々な経験を積み、生活環境が変わりました。卒業後は、陶磁器製造会社の原型師、中学校の常勤講師、美術铸造会社にて鑄物師になるための職人修行と、様々な美術に関わる仕事を経験しました。現在は美術铸造の仕事を小規模にしながら、家業の幼稚園運営を本業に生活しています。

Q:幼稚園の運営は大変ではないですか?

運営というのは、肉体労働と違って目に見え

ない苦勞が沢山あります。主に人が相手の仕事ですから、外側、内側からと様々な問題が必然的に起こってきます。お預かりしている子供達の安全第一を絶対条件にして、常に廻りに目を配りながら務めていますし、環境を整えるために現場に人が居なくなつてからの仕事も多いです。肉体労働は以前の仕事よりも少ないですが、職人仕事をしていた時よりも精神的にも疲れことが多いです。

Q:大学で学んだことは何か役に立っていますか?

幼稚園では副園長としての業務を行いながら、年間計画の中に造形教室を設けて、子供達と

一緒に粘土製作をする時間を持っています。造形教室では、焼き物(皿、動物)の指導をしています。陶粘土を使って造作して、本焼き焼成(1280℃)まで行う本格的なものです。子供達は、泥粘土状態の粘土を皿や動物に成形して、焼成後のズッシリとした硬い完成品を見ると神秘的な感動をしていますよ。普段使っている茶碗や皿などが実は粘土からできている知識を得ると、何とも不思議な感じになるのでしょうか。また、幼い子供達が作る動物は、良く特徴をつかみ、「こんな見方があるので、自分もこんな見方をしていたよ」と、忘れていた自分を思い起こしてくれる作品が沢山あり、大人の私達が勉強することもあります。それらを観ていると、ほのぼのとした嬉しい気分になりますよ。この様に少なからず人と関わりながら、美術に関わる仕事を自分自身が楽しんで続けています。

Q:大学に何か意見はありますか?

我が園では先々代の頃より名古屋自由短期大学から就職をしてもらっています。名称が変わった近年の名古屋芸術大学短期大学部からも先生として来てもらっています。自分の後輩になるのかと考えると複雑ですが、名芸大の名にかけて良い先生を我が園に送り出してほしいなと思います。よろしくお願ひします。

！神清院・河國荘と仲間達！第2回目だよ！

前号で告知した
毎刻5期・吉崎大樹さん企画の
『2005年度ミニ同窓会』
無事開催できたようです。

あれあれ…またまたやっちゃん
いました！2年間程度はあつ
と言う間に過ぎて～第2回目
の同窓会は愛知万博でにぎわ
う、ご当地は犬山名鉄ホテル
にて2005年6月5日開催させ

て頂きました。前回より参加の方々も、倍近くになり～顔ぶれ
も多彩で盛り上がり方も？もう、半端では…！？済まされな
い状態となりました。まずは、某デザイン事務所経営のN氏の
ファッショニ皆の者！？カウンターパンチ、悶絶！絶句？
でパピュペポン！名鉄ホテルのロビーは総天然色にわきあが
るのでありました！（でも、吉崎個人的にさらに次回に期待し
ているのですが…）さておき宴会一次会参加メンバーのご紹
介から～ 後列左より、荻野一雄さん、長谷川謙二さん夫妻、
竹中智史さん、星信幸さん、花井利彦さん、柏原和利さん夫妻、
中列左より、岩井義尚さん、吉崎（家内）、今西清剛さん、内藤哲
也さん、前列左より、中村重哉さん、長谷聖子さん（蟹江）、櫻井
寿人さん、小池敬一さん、八坂宏明さん、公文雄二さん、吉崎。[写
真1] そしてワンショット、ホテルロビー玄関～前列左より、
二人目 山下政典さん [写真2]、武骨な男子寮の集いでは
あります、長谷さん他～華をそえて頂き、感謝！感謝！二次会
での模様を掲載出来ないのが、残念でありますか…えええつ
～何処から？こんなにお酒調達してきたのと言うぐらい、テー
ブルの上は、ビール、日本酒、焼酎、ワイン、他溢れかえり、みん
な呑むは、呑むは！いにしえの語りつがれる、新入生歓迎コン
パの様ありました！まだまだみんな青春してますよ、次回
は2007年6月の第一日曜日、現在開催場所は未定デス！
諸事情にて…。今回もあちこちからの問い合わせ等で初めてこの事を知って、参加された方々も多数おられますので、別
に同窓会にこだわらず家族旅行のきっかけぐらいに思って頂
き、ご家族共々参加頂ければ幸いです！

詳細につきましては、吉崎、若しくは、岩井義尚先生まで！



吉崎大樹 TEL 0869-66-8569

〒705-0003 岡山県備前市大内679-13

岩井義尚 TEL 0587-38-2656

〒482-0033 愛知県岩倉市神野町平久田10

e-Mail:yoshi-iwai@nua.ac.jp

OG/OB 同窓生は今…

☆同窓会が後援を行った展覧会報告【変更注意!!】

2004年6月から2005年3月まで、同窓会が後援を行った展覧会を下記に報告します。後援依頼は後援規約をよく確かめた上、ご応募下さい。

●ギャラリープラネット2004年展(23期卒 鈴木善晴 他)

2004年6月19日～27日:ギャラリープラネット

●平田隆宏展(19期卒 平田隆宏)

2004年7月16日～25日:APA F2

●見持祐子展(22期卒 見持祐子)

2004年8月4日～17日:ぎゃらりい西利

●太田元弘展(14期卒 太田元弘)

2004年8月17日～22日:豊田美術館

●河野秀人日本画展(21期卒 河野秀人)

2004年9月11日～17日:ギャラリースミ

●杉山陽子展(26期卒 島氏陽子)

2004年9月29日～10月4日:ギャルリーくさ笛

●煌展(31期卒 櫻本幸子 他)

2004年11月23日～28日:愛知芸術文化センターアートスペースH

●加藤優一“records”展(23期卒 加藤優一)

2004年11月26日～12月26日:+Gallery

●After Remisen#6秋吉風人+徳重道朗(28期卒 秋吉風人 他)

2005年1月22日～2月2日:ギャラリーBE&be

●Exhibition SNOW GARDEN Vol.2(24期卒 平山万紀子 他)

2005年3月1日～6日:愛知芸術文化センターアートスペースX

●平松純一展(27期卒 平松純一)

2005年3月16日～27日:アートサロンGARO 上記ほか。(計24企画)

作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1. 資格

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

2. 後援金

個展・グループ展(参加者全員が同窓生であること)とも1回に二万円とし、各参加者につき年(期間:4月1日より翌年の3月末日まで)1回とする。但し、名義後援は認める。

3. 手続き

イ)会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ)作品展終了後1ヶ月以内に、DM及び会場(作品)写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

4. 条件

イ)作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

5. 問い合わせ

名古屋芸術大学美術・デザイン学部事務局

TEL0568-24-0325

様式1	後援依頼	様式2	報告書
	○年○月○日		○年○月○日
名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿	第○期○○○科卒業 ○○○○○印	名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿	第○期○○○科卒業 ○○○○○印
	下記の作品展について後援をお願いします。		
1) 名 称	○○○○展	1) 名 称	○○○○展
2) 場 所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)	2) 場 所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)
3) 会 期	○年○月○日～○年○月○日迄	3) 会 期	○年○月○日～○年○月○日迄
4) 代表者(出品者)	郵便番号・住所 ※氏 名 (第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入	4) 代表者(出品者)	郵便番号・住所 ※氏 名 (第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入
5) 入場者数	○○名	5) 入場者数	○○名
6) 写 真	写真○点添付致します。	6) 写 真	写真○点添付致します。
	以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先／○○銀行・○○支店・○○座・No.○○ 住所・氏名・電話番号・口座名義(フリガナ)		

ゴールデンプライズ2004 受賞者

めざましい活躍をした同窓生を、表彰するゴールデンプライズ。
2004年度は「ノリタケの森 レストランキルン」での総会・懇親会場にて、下記のお二人を表彰いたしました。

ゴールデンプライズ 2004

鈴木 淳子(日本画 22期卒)

泉 秀憲(洋画 11期卒)

おめでとうございます。

同窓会総会・懇親会のお知らせ

第18回総会・懇親会はフレンチレストランの老舗「白亜館」で開催いたします。去年は大変大勢の方にお集まりいただき、懇親を深めることができました。今年も会費は無料です。是非、皆さんお集まり下さい。



総会風景

場所 白亜館 葵

名古屋市東区葵1-16-38 葵ガーデンビルB1
TEL052-933-7531

交通のご案内

- 地下鉄東山線「新栄町」駅2番出口より徒歩1分
- 駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。



懇親会風景

日時 平成17年11月5日 [土]

総会受付 15:30~

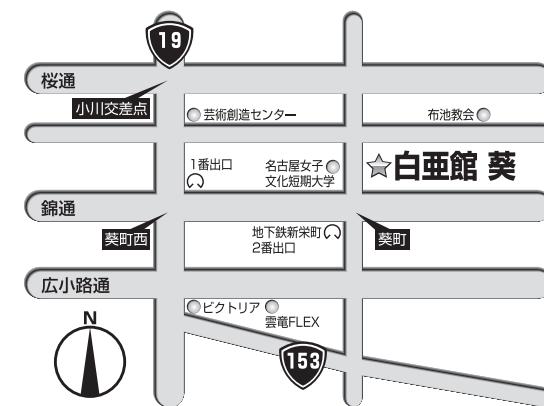
総会 16:00~

懇親会 17:00~



料理を楽しむ

会費 無料



会場の外でも

役員紹介

評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	監査	理事(事務局長)	理事(書記)	理事(書記)	理事(会計)	理事(会計)	理事長	副会長	副会長	副会長	副会長	会長			
3期	3期	3期	3期	3期	3期	3期	3期	3期	3期	3期	2期	1期	8期	5期	2期	2期	1期	5期	20期	19期	5期	23期	20期	19期	
日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	彫刻	日本画	デザイン	日本画	彫刻	日本画	洋画	日本画	洋画	日本画	洋画	日本画	洋画	デザイン	
藤浪英智	湯浅奈美	中川けい	井村清子	梅村愛	榎原孔美子	仲田真知子	加藤雄郎	黒川直也	水野寛奈	佐竹希子	稻波伸行	宮原剛	岡本昌子	小竹陽子	村上薰	佐竹希子	三輪政弘	大沢研次	鈴木琢磨	浜田由美	鎌田桂太郎	荒木紀江	杉浦尚史	岩井義尚	白井久義
tel. 0568-24-0325	fax. 0568-24-0326																							青木高弘	

お問い合わせ

記事のお問い合わせ、投稿、また住所変更された方など…卒業期、科、氏名、住所、電話番号をご記入の上、下記までご連絡ください。

〒481-8535
愛知県西春日井郡西春町
名古屋芸術大学西春キャンパス
美術学部・デザイン学部同窓会事務局 宛
tel. 0568-24-0325
fax. 0568-24-0326